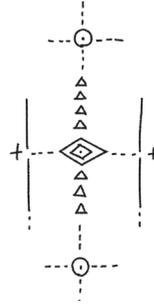


COSMOS集



水上 芙季選

「あすなる集」特選

ハートの形

岩淵 初代 岩手

ひと袋に茄子種たつたの二十二粒ハートの形の小さき種よ
馬鈴薯の切口下に並べ置き四畝植ゑて腰を伸ばしぬ

秋に時き凍てしもありてまばらなりスナップ豌豆白き花咲く
わが背丈はるかに越ゆる末枯れたる菊芋の茎鈍で倒しぬ
広島は大都会なり出口違へ駅より直ぐのホテルに着けず

早く出てくれ

長瀬 慶一郎*福島

ホワイトデー妻に鳩サプレーを買う黄色いあの缶ほしかったから
妻はいま藤井フミヤを聴いているスタイルいいね吾と同じ歳
ひと晩の置きが大事な紙新聞ニュースの真偽たしかめるまで
前置きの長い電話だ録音をされてもいいさ早く出てくれ

あの怪我でよくぞ千秋楽に出た初優勝の尊富士関たけるふじ

土の匂い

野口 喜美江*群馬

佐保姫は音もなく庭おとずれて黄の水仙を一気に咲かす
冬のコート深く脱ぎ散歩する四月一日タンポポ咲けり
朝採りのキャベツをゆるりとはがす手に土の匂いの露がしたたる
焼香を待つ人の列はなびらを傘に散らして桜雨降る
店先に桜餅また柏餅並べ置かれて四月の半ば

新芽の碧

秋山 幸子 千葉

台湾も日本も小さき島国で地震の脅威ともに増したり
花蓮フロンの地震をLINEの警報で知りたる朝は心騒ぎぬ
庭先に枯れたるパクチー蘇り新芽の碧の清しきかをり
温暖化ゆゑに不足のカカオ豆 四半世紀で絶滅といふ
やはらかき光射し込む十字架に心しづまる春の教会

眠るコアラ

人見 江一*神奈川県

金足りぬ早く入れると急かされる、ドラ息子だね駅のチャージ機
いちめんにれんげ咲く田と谷戸残る(ふるさと村)は横浜市内
前を見ろ、歩きスマホの若者よ 行く手にあるぞ、奈落や壁が
枝と枝握手しそうな花の下せせらぎ沿いにランドセルが行く
毒のあるユーカリの葉を食べたあと死んだみたい眠るコアラは

鈴木 竹志選

ひきあげしや 山口育子*東京

かばん背にふくろ両手に帰る児に引き上げ者みたいと祖母はいう
「ひきあげしや」意味わからずに問う孫に祖母は戦後の生活かたる
車こぬ赤信号の交差点一人渡ればつられてわたる
桜まだほほ笑むまえに賑やかに花見の宴で人は微笑む
主役まだ登場せずにはじまった桜まつりは提灯ばかり

十 二 秒 阿部直子 新潟

六十年会はず来しが障りなし同窓会は出ないと決める
二羽の鴨が潜りゐる間の十二秒われも息止め川面を見つむ
満開の桜に疲れ突堤にイソヒヨドリの声聞きに行く
よく見たいと近づきすぎて見失ふ人混みの中のアナタの背中
赤に黄の割引きシール貼られたる牛乳選るはわれのプライド

音の地 図 加藤かづゑ*新潟

盲目の友は音の地図聴くという 腕組み歩きつつ「もうすぐ駅ね」
救急車の音は困ると友は言う〈音の地図〉壊されてしまうと
病院の広き三階待合室 窓いちめん青空と雲
いつの間にか記憶の積木に隙間できカランコロンと抜け落ちていく
抜け落ちた部分の記憶拾っては咄嗟につなぐ友との会話

宇良の笑顔 作田良子 石川

負けた時の宇良の笑顔にいやされる大阪場所盛りあがりたり
富士のつくお相撲さんが好きになる照ノ富士、熱海富士、尊富士
カッコいい鶴のカッブルやつてきぬ代はりばんこに水あびしてる
梅が枝にデコボンさせるまひるどき目白の番矢のやうにくる
満開のしだれ桜の昼下りテンと目があふ窓辺によれば

郡上街道 永井八重子*岐阜

ウグイスとうぐいす嬢の声競う空まで響く選挙告示日
蕾から咲いて散るまでサクラ花春待つ人の心動かす
満開の桜横目にルンロンと郡上街道北へと向かう
チューリップ今年に歌を口ずさみ赤・白・黄色と植えて楽しむ
爺ちゃんばばにいなければ生きてゆけぬと孫は言いたり

水上 比呂美選

春呼ぶ匂い 奥村幹男*愛知

コンビニは夜道に白く浮き上がり我の孤独の停車駅なり
両の手をまず温める缶コーヒー朝空見上げ生ぬるきを飲む
巣の中に赤い頭で見つめあいじつと動かず夜のつばめは
枯れ草を燃やす煙は鼻に沁み冬焼く匂い春呼ぶ匂い
ひさかたの春の光は山に満ち全山覆うあかるいみどり

ぼくの波長 田原五郎*京都

春の日と残りの冬がせめぎあいたためらうぼくの波長と似てる
屈折し川面に映る春の街すこし揺らいで逆光あびて

木漏れ日が幾何学模様描いてる数式語る博士のように

ひざしあび見慣れた街を歩いてる恰も影のあと追うように

負けないさこれまでだつて生き抜いた傘さすほくに雨横なぐり

あさりの模様 小野久美子*兵庫

くるくると鉛筆削ればくるくと削りカス出て花のようです
あさり鍋あさりつきつきパカパカと笑うがごとく口をあけたり
似ていても同じ模様は無いというあさりの模様の無限の世界
ミッキーがミッキーらしくて着ぐるみの中にはきつとミッキーがいる
破壊にも守りにも見えガジユマルの根が絡みつくタ・プローム寺院

岩美の空 山野いづみ鳥取

九十人われら挙りてオカリナのコンサート開く能登の支援に
平均年齢七十八のわが組がデビューすオカリナチャリティーショーに
能登地震で津波寄せたる岩美町 田村虎蔵の育ちたるまち
風つよき岩美の空にオカリナが響く虎蔵の(二寸法師)
主治医より食事制限課せられて食べさせられぬ食べたい夫に

むくげ咲く 戸田セツコ*広島

目がくらむほどの峡谷沿いの道たどり来て高暮ダムに着きたり

高暮ダムにまつわる強制連行の歴史かなしむ慰霊碑の傍
犠牲者の望郷の花のむくげ咲く高暮ダムはも強制連行に成る
満ちて欠け欠けては満ちるお月さま満ちる明日がほしいわたしも
昭和の子は季節に育てられにけり春風さくら、小川のせせらぎ
松尾 祥子選

こんびら歌舞伎 宮地正志 香川

五年ぶりこんびら歌舞伎ののぼり立ち小さな町にも活気みなぎる
こんびらの歌舞伎のお練り華やきて人力車でゆく幸四郎さん
新芽摘み蓬団子をつくりたる妻の手によるふる里の味
一台の車が通るも珍しく視線をとめる廃屋集落
初物の筍掘りて汗をかく猪よりも先に収穫

幸 福 度 中内 佐登美*高知

小児科といわずに子供専門の病院という孫二年生
大銀杏結えぬ力士が盛り上げる春場所連日満員御礼
尊富士けがを押しての初優勝百年ぶりの偉業達成
持ち帰る花見弁当開けたれば名残りの花びら一枚入りぬ
食品に医療費も上がるこの国の幸福度などただ下がるのみ

今こそ告げむ 石本洋子 佐賀

はろばろと来たぞ鹿兒島桜島おまへの煙に勇氣もらひに
天文館名物「しろくま」食べをれば隣席になんと東京の人

突然に認知症検査の通知受く「一旦停止」の違反は重し
われと共に庭の桜は齡重ね咲くもゆつくり散るもゆつくり
ホークスが勝ちて夫は機嫌よし今こそ告げむ指輪買ふこと

遊 び 相 手 酒 井 恵 子*長 崎

夢にたつ母と話せり目覚めればハツと気づきぬ母の誕生日
早世の吾子の冥福祈りおりまだ奮なる寺のさくら木
わが母校きょう閉校す入学の記念写真はモノクロームで
孫たちは中、高生と成長し遊び相手はわれにはあらず



藤野 早苗選 「その二集」特選

ワツツアツプ くどう れいん*岩 手

錠剤の殻のへこみを内側から指で押して空気の錠剤にする
きみはいまホットドックの街に住みワツツアツプってほんとうに言う
バッファローの英語俳句を読みながらこれは日本に於けるカモシカ
灰皿の白さ重なる居酒屋に三人いれば三人の恋
アイシャドウ十二色パレットを買ったこの目は二つしかないけれど

中学のバレーボールを観戦すまさかまさかの孫の活躍

新 婚 当 時 牧 島 幸 造 鹿 見 島

力餅背負はされ泣く孫の顔動画に見つつ泣き笑ひせり
譲られしグランドゴルフの一式はほろにがデビユー、初戦さんざん
徳之島で吞む旭川の「男山」北と南の架け橋のごと
落花生の種時く時季が廻りきぬ作る喜び今年もありて
「あの頃は若かつたね」とアルバムが甦らせたり新婚当時

尻 尾 水 鳥 葉 子 茨 城

風に散る花より残る花寂し薄明りして夕闇の中
膝をつき床をきしきし拭きながら足りぬ何かを自らに問ふ
春雨の中歩みゆく傘の女あなひそか白き尻尾しっぽがのぞく
お弁当持つて花野へ出かけんと油揚げ煮る四月の朝あした
生さるとは死に向かふこと花散らす雨音を聴く清明の朝

黒 糖 ミ ル ク 谷 川 恵 崎 玉

〈緊張で動悸がしそう〉とLINEして友に借りたる心臓ふたつ

緊張はぴりりと辛い 選歌する二十五分に喉は渴きぬ

末端の冷えきつた手をびよいと挙げ図々しくも質問したり

ドトールの黒糖ミルクなんとかのひとつおほきさいサイズを頼む
へ人生は諦めだらけこれは真(ま)なんとかなる(ま)もしかしして真

薄 皮 谷 真 樹 * 神奈川

またいぢまいやわらかになる陽のなかで新たまねぎの薄皮をはぐ
祝福のちさきマリアのかたちして枝先に立つ白き木蓮

このたびも区間の変わらぬP.A.S.M.O持ちピッと改札機にかざす春
本心を確かめるのは怖いから耳をふさいで深読みする春
蛇の髭が椿が落ちる点々と推敲しすぎた短歌のごとく

う ん ち く 松下 誠 一 * 東京

ペロの下に安定剤は崩れながら、田端へ駒込駅間のカーブ
暖かくなれば十字路中央に思想を詰めているアマガエル

食欲がなければないで眠剤のよく効くだけの今日にばいばい
夜の花にいつびきの虫 その花の、その虫の名前がわからない
喋ることの特にない川沿いにて「ニーチェはね…」とうんちくを垂れたい

桑原 正紀選

朝 の 電 車 上 野 成 * 新潟

手のひらのスマホ画面にリズム取る男子生徒の白きイヤホン
女生徒の会話に因数分解の語も聞きうれし朝の電車は

電柱の天辺に巣づくり始めたるコウノトリペアそこがいいかい
雪割草見学者の傘とりどりに映えて小雨の土塁を巡る
切れ長の目を前髪に覗かせて会釈し保育士わが前よぎる

快癒を祈る 椋 本 信 枝 静岡

青い鳥はどこにもあるよザブザブと菠稜草の根つこ旨さう
家々のあはひ流るる源兵衛川今日は昼餉のカレーのほひ
屈強な父病みたればおろおると厄除け団子持ちて子はくる
白湯一杯をうまいと夫が言ひたれば酒好きの吾も酒絶ち決める
あこがれの未亡人なんて戯れ言は決して言ふまい快癒を祈る

豆 台 風 森 崎 洋 子 * 静岡

雨雲が南の風とコラボして春の嵐となりてあばれき
嵐ゆえ休園よろこぶ子どもらは豆台風となりて来襲
ぶるぶるっと武者震いしてヒヨドリは雨足強き空へ飛び立つ
若緑のバラの蕾にアブラムシ行儀よろしく一列となる
目はメガネ耳は補聴器歯は入れ歯アデランスにも頼りいる夫

地 底 湖 小 田 沙也加 * 愛知

千里眼なんて持たずに生きてきた秋以降埋まらない計画書
道中に三つ火山が見えるのもこの出張の試練と思う
葉と花に意思があるなら葉の方がせっかちだろう桜の木たち
五年目の春に私は住んでいて不燃ごみだつてもう捨てられる
地底湖が陽を浴びている 先生に短歌を見せた飲み会のこと

お団子持つて 中村泰子*京都

たれ目の男 岡崎清和香川

突然の出番に慌てたウグイスら発声練習竹林の中
母が逝き三度めの桜見に行こう笑つて食べたお団子持つて
教え子の大学入学写真にも小さなえくぼ五歳のおもかげ
天井がスロットマシンのごと回る今朝のめまいはとても強烈
待ちのぞむ息子が戻ってきたようなインプラントのついに完了

田起しのトラクター行く春の日はまつすぐ畝の線引きながら
春されば五反六畝の田を起し子らに送らう白き米粒
千両も万両も我が庭先にあるけれどまだ両替はせず
風呂上り鏡に写る君は誰 人の好きさうなれ目の男
川添で風に揺れてる枯れススキ一日長し俺に似てゐる

大松 達知選

乙女ゲー 池田花穂*福岡

重たそうなり 山添聖子*奈良

新しいノートに記す山際と山の端の違い教わりながら
木蓮のつぼみそろつて北を向く渡りのときを待つ白い鳥
つくしでもスギナでもないさみどりの中学生よ入学の日の
木蓮の花びら落ちる音がする今年の春の終わりゆく音
木蓮の花びらを掃く人ありてほうきの先は重たそうなり

バクバクを振り切るように仕事する私と君との距離10センチ
〈乙女ゲー〉みたい君の好感度頭の上に見えたらいいのに
「USJ彼氏で行ったの？」その質問クロなんですかシロなんですか
何観るか大事じゃなくて君と観たい映画を探す布団の中で
タイミング合えば映画に誘うのにウツドストックばかり見ている

ピース缶 川村りら*鳥取

かしはそば 原万紀長崎

ムスカリの碧は冷たき冬の色小さくていいその碧がいい
缶ピースの鳩の居並ぶ父の部屋ローマ史の書は紫煙に浸る
病む父にローマは遠くアツピアの深き轍を書見台にみる
ピース缶なくなる日まで金の鳩それまで飛べよ父を護れよ
亡き母と花見した道を教えると父八十五 声が大き

「また」がまた来るを望みぬ病む友の楽しかつたまた来るねと言へば
リンパ癌を告げたる友は座布団にほのかな温み残して帰る
易き方へ舵取りて来しわが一生大根おろしは辛さがよろし
鳥栖駅のホームの立喰ひかしはそば啜りて姉の見舞へ向かふ
意識なき姉と思ひしが名を呼べば声なき声となみだひとすぢ